

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム せせらぎの里 A棟	評価実施年月日	平成19年10月25日
評価実施構成員氏名	谷、横澤、仙北、西山、山田、木村、今野、牛田、木村、曾根		
記録者氏名	谷	記録年月日	平成19年10月25日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	人格を尊重し地域の中で穏やかに生活していただく事を目標とした理念を作っている。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念をホーム内に掲示している。毎朝の申し送りの後で唱和し 理念の実行に向けて努力している。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	理念・理行は玄関前に貼り 来訪時目に着くようにしている。『せせらぎ便り』家族版・地域版を作成し理解してもらえるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩の時に挨拶を交わしたり ホールを開放し踊りの練習に使ってもらったりと地域との交流を大切にしている。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に加入し花火大会や敬老会に参加している。地域の中学校の学校祭やコンサートに招待されたり、近所の幼稚園児さん達との交流昼食会を催したりしている。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進委員会に民生委員の方や町内会長さんに入ってもらい 地域との交流を模索している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	前回の外部評価後改善できる部分はすぐに改善している。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	町内の歩道が通りにくいとの意見が出たため 町内会を通じて市に要請した。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	地域包括センターの研修会や市の集団指導に参加し サービスの向上に努めている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修に参加し 成年後見制度を活用したい人のために学ぶ機会を作っている。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束廃止推進委員会を立ち上げ 研修会の参加、マニュアルの作成をおこなっている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時本人・家族に十分説明し理解していただけるよう努め、要望などを聞いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者様との日常会話を大切にし 意見を聞いている。利用者様の代表に運営推進会議にも参加していただき、意見を運営に反映するようにしている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月 請求書・領収書を送る時に金銭出納長のコピーやせせらぎ便りを入れ、必要に応じて個別に手紙を入れている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置し意見を集めている。家族会の焼肉など、家族と職員が交流する場を設けている。運営推進会議に参加してもらい意見をもらっている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議を開き職員全員からの意見を反映させるように努めている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	行事の時は出勤者を多くするなど調整している。体調不良の時は勤務変更ができる状況にある。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の移動は最小限にし 顔なじみの関係を重視している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	研修会への参加を促したり、資格取得を促している。	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	地域包括センターの交流会や勉強会に参加し交流を深めている。他のグループホームとグループホームケア研究会を作り 介護の質の向上に向けた研修会などを行っている。	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	忘年会・新年会・観楓会・歓送迎会などを開き職員間の親睦に努めている。	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	研修への参加や資格取得を勧めている。	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	入居前から自宅・病院などに訪問し本人と直接 面接・相談を受け、少しでも安心して利用してもらえるように配慮している。	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	自宅や病院に訪問し本人・家族と直接面接、フェイスシートを作成し不安・希望など気軽に相談できる雰囲気作りを心掛けている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた時にはグループホームがどんな施設であるのかを見てもらい、理解して頂くように努めている、他のサービス利用が適当である場合はその旨説明し理解を求めている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	見学や面接を通して 顔なじみの関係をつくるように努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者様の得意な事を教えてもらったり、畑仕事や茶碗洗い・料理などを一緒にしたり、ゲームなどで一緒に楽しんだりしている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族会の焼肉やゲームを通して 一緒に利用者様を支えていく関係作りに努力している。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	せせらぎ便りで情報提供したり、日常生活の様子を知らせるようにして面会を多くしていただけるような働きかけをしている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	外出・外泊の制限はなく、昔からの交流や馴染みの場所に行けるように支援している。個別に外出の希望ある時は 都合がつく限り支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者様の個性を活かしながら穏やかに過ごせるように援助している。(人間関係に配慮した食事の席やソファの配置)		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院や退所後にも必要に応じて連絡を取っている。入院先には情報提供し継続的な関わりを持っている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様の希望を取り入れていくように定期・随時にカンファレンスを開いている。本人の話をよく聞き、その人らしく暮らしてもらえよう援助している。		センター方式を導入するべく準備を進めている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時にフェイスシートで情報を集め、馴染みの暮らしに近づくように努力している。		センター方式を取り入れて細かく情報収集を進めていく。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	管理日誌・介護日誌を活用し毎日の状態を把握している。チェックシートを活用し水分・食事・排泄・血圧・体温の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	職員間の意見交換はカンファレンスで行なっている。こまめに家族や入居者様の希望を聞き取り計画に取り入れている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ミニカンファレンスを行ない短い期間で介護方法の検討をしているが、介護計画の作成が追いついていない。		状況の変化に応じて新たな介護計画を作り細かく対応していきたい。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の状態を介護日誌に記録し カンファレンスや申し送りで情報を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	入居者の要望に応じて外出・外泊・家族の宿泊を受け入れる等 柔軟な対応に心掛けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進委員会に民生委員の方や町内会長さんに入ってもらっている。行事の時に地域の方がボランティアに来てくださる事もある。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	訪問床屋・訪問マッサージ・訪問美容師などを活用している。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターの研修会・勉強会に出席し、情報交換・協働するように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	1日1回の医師・看護師の巡回がある。毎月の定期受診、随時の健康相談をおこなっている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門医と連絡をとりあい薬の調整に関する相談をしたり受診を受けたりしている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員を確保し日常の健康管理をおこなっている、また24時間連絡が取れる体制ができている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院先の病院と連絡を取り合って早期退院に向けて情報交換をしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終末期に向けた方針は確立しており 家族の要望に応じる準備をしている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	医師・看護師と連携をとり 変化に応じた対応ができるように準備を進めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>入院の際は十分な情報提供をおこなっている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>職員会議で常に話し合い、言葉掛けや対応などは 入居者様の尊厳を守っている。記録・情報などの管理を徹底している。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>日常的に自己決定の場面を増やし 支援している。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとりのペースを大切に生活を送っていただけるように努力している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>月1回 訪問美容師・理容師が来るが 本人が希望する店に送迎もしている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>その人の出来る事・出来ない事を把握し、職員と一緒に準備や片付けをしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。</p>	本人の身体・心身状況を考えながら 日常的に楽しめるよう支援している。		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	ひとり一人の排泄パターンを把握し適切な支援をしている。 オムツ使用から布パンツに移行した方もいる。		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	お湯の温度や入浴の仕方など、好みや希望に合う入浴をしていただくように努めている。 入浴剤なども好みの物を選んでもらっている。		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。</p>	ひとり一人の睡眠パターンはほぼ決まっているので 安眠できる様に支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>	生活歴を把握し、個々の楽しみに合わせた対応をしている。 買い物・散歩・日光浴・畑仕事・縫い物・歌・洗濯物たたみ等。		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	自己管理できる方はしている。 出来ない方はホーム管理だが 自分の買い物をする時はレジでの支払い等を自分でできるように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ひとり一人の希望にそって、買い物・銀行・散歩などを支援している。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	学校祭見学・プラネタリウム・フラワーガーデンなど外出の機会を積極的に作っている。個別に家族との外出も支援している。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	希望があればすぐに電話をかける支援を行っている。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも来訪できる様に 時間制限などはしていない、来訪時にはプライバシーも守っている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員が講習会等に参加している。身体拘束委員会を設置している。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関・居室など施錠していない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	夜間は定時や必要に応じての巡回を行っている、日中は職員が連携して様子を把握し安全に配慮している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ひとり一人の心身状況に応じて対応している。 針・刃物などの使用時は職員も見守り一緒に行っている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	申し送り・管理日誌・連絡ノート・職員会議などで職員全員がひとり一人の状況を把握し、事故防止に取り組んでいる。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	定期的ではないが応急手当の講習を行っている、又 24時間いつでも主治医の指示を受ける事ができる体制にある。		定期的に取り組む。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	利用者と共に定期的に避難訓練などを行っている。 防火管理計画を作成している。 緊急連絡網を整備している。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ひとり一人の心身の変化などを家族に報告し、リスクについて理解していただくように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>バイタルチェックを毎日行っている。体調の変化などについて 日勤者 夜勤者と情報を共有し 異変があればすぐ医師の指示を受けられる体制にある。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>職員全員がひとり一人の服薬について理解し、2度・3度の確認を行っている。 申し送りなどにより 情報を共有し症状の変化を確認している。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>排尿・排便のチェックは毎日行い、水分補給や身体を動かす工夫など その方に合った対応をしている。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後の口腔ケアを、理解力・身体状況に応じて支援している。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>身体状況に応じて食事摂取量・水分量の管理をしている。病気があれば栄養士・医師のアドバイスを受けている。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症に対する予防・対応の取り決めがある。 インフルエンザ・肺炎球菌の予防接種を受けている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所の調理器具などは毎日消毒している。毎日～1日おきに食材の買い物をして新鮮な食材を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	手すりやスロープを設けてあり安全に出入りできる。玄関前にイベント掲示板を設置し町内の方・家族の方にも参加してもらえるようにしている。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居間からは畑や中庭の花・木が良く見え和める空間になっている。居心地良く過ごせるようディスプレイなどに季節感も取り入れている。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファや食卓・畳コーナーなどがあり、ひとり一人のお気に入りの場所で過ごしている。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族の協力で本人のなじみの物を居室に持ってきていて安心して居心地良く過ごしている。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	24時間換気している。利用者の状態・希望に応じこまめに温度調節している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>共有部分には手すりを設け 自立した生活を送れるように工夫している。 全館バリアフリー・車椅子に対応した広さになっている。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>トイレ・浴室・居室など すぐわかる様に工夫して、自立支援をしている。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>玄関前にベンチやプランターを置き、利用者が自由に花に水をやったり 日光浴を楽しんだりしている。 畑に花や野菜を植え 職員と共に草取りや収穫を楽しんだりしている。</p>	

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>○ほぼ全ての利用者</p> 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>○毎日ある</p> 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>○ほぼ全ての利用者</p> 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>○ほぼ全ての利用者</p> 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>○ほぼ全ての利用者</p> 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>○ほぼ全ての利用者</p> 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>○ほぼ全ての利用者</p> 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>○ほぼ全ての家族</p> 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>○ほぼ毎日のように</p> 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている <u>少しずつ増えている</u> あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p><u>ほぼ全ての職員が</u> 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><u>ほぼ全ての利用者が</u> 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><u>ほぼ全ての家族等が</u> 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

ふれあい会館を併設しているので イベント等に町内の方にも参加してもらっている。 24時間いつでも医師との連携ができているため 医療面での不安が少ない。 グループホームケア研究会を作り ふれあい会館を使って他グループホームと研修会を開催しケアの質の向上に努めている。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームせせらぎの里 B棟	評価実施年月日	平成19年10月25日
評価実施構成員氏名	山口, 阿木, 鈴木, 佐々木, 垣田, 古小高, 香月, 志村, 立野, 佐藤,		
記録者氏名	山口	記録年月日	平成19年10月25日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>人格を尊重し地域のなかで穏やかな生活が送れるよう支援することを謳っている。</p>		
<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念をホーム内に掲示している。また、毎朝の申し送り時に皆で唱和したりと、理念を職員全体で共有し、その実現に向けて努力している。</p>		
<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>理念をホームの入り口というわかりやすい場所に掲示している。また、理念の実践である日々の生活の様子を、「せせらぎの里便り」として地域やご家族に配布し理解を得ている。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>散歩時にあいさつしたり、庭や畑をみせていただいたりしている。また、併設の「ふれあい会館」で催しがある時には、「便り」などで地域の方々をお誘いし、参加していただいている。「ふれあい会館」を開放し、地域の方々の日々の活動に利用していただいたりもしている。</p>		
<p>地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会に加入し、町内清掃などの地域活動や、花火大会、敬老会などの行事に積極的に参加している。また、地域の学校の学校祭やコンサートに出かけたり、保育園の園児さん達との交流昼食会もしている。</p>		
<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議に町内会長さんや民生委員さんなど地域役員の方々に入っただき、地域のニーズに応えようと努力している。</p>		<p>地域「子ども110番」の協力。町内会旅行への身体面の援助(看護師の同行)</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	職員全体で自己・外部評価の重要性を認識している。そしてこれをもって、日頃、自分たちが行っているケアや活動を見直し、改善している。	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	運営推進会議で上がった意見や改善事項について、経過報告や話し合いをしているも、全職員に話しが行き渡っていない。近所の歩道の整備について、町内会を通じて市に申請している。	ユニット会議や職員会議にてしっかり話し合い、質の向上に努めていきたい。
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	地域包括センターの研修会や市の集団指導などに参加したり、市の介護高齢課や保健福祉課へ相談などしている。	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	地域権利擁護事業や成年後見制度については今後の研修課題である。	今後理解を深めるため研修会、勉強会に参加していきたい。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	虐待防止委員会の設置、研修会へ参加し、職員会議で話し合い行っている。職員ひとりひとりが行動、言葉使いに配慮し、職員自身にもストレスを生じないように、管理者職員間でできるだけ話を聞ける体制を取るよう努めている。	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	契約時と都度説明を行い、署名と捺印をいただいている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様の意見、不満、苦情は態度や会話の中から汲み取れるよう努力している。運営推進会議にも参加してもらい、意見など言っていただき運営に反映するよう心掛けている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	利用者様の健康状態や生活の様子、金銭の出納などは、「せせらぎの里便り」と共に現状報告として毎月送付している。また、必要により電話にて、その他ご家族面会時には必ず声を掛け説明するよう心掛けている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	全職員がご家族様に気軽に声を掛けていただけるような雰囲気作りを心掛けている。玄関に「ご意見箱」を設置し、対応していけるように配慮している。問題などは、都度カンファレンスや申し送り時に話し合い反映していけるよう努力している。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の意見をよく聞ける体制作りを心掛けている。職員からの意見を聞き改善できるところは改善し、働きやすい職場作りを心掛けていきたい。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	状況に応じて、勤務時間の調整や変更など行っている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	馴染みの職員の移動や離職など、最小限に抑えられている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	旭川市内グループホームの集まりである「旭川グループホームケア研究会」における勉強会をはじめとして、その他各種団体の勉強会にも積極的に参加している。また、同法人内のグループホームでの交換研修も行っている。	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	交流会や勉強会を通して親睦をはかり、ケアサービスの向上に役立っている。	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	法人内の観楓会や忘年会、ホーム内での歓送迎会、親睦会を実施し、交流を深めている。また、毎月のシフト表作成の際、できる範囲で勤務の希望を聞いて反映させている。	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	研修への参加や資格習得を勧めている。また、日常の勤務や業務に関して、適切な指導を行っている。	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	入居前の面談でゆっくり話や不安に思っていることなど聞いたり、ご家族様と一緒に見学してもらい、安心して生活していただけるよう努力している。	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	ご本人様はもちろん、ご家族様に対する面談も行っている。不安なことなどを聞き、少しでも安心してご利用していただけるよう、努力している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	グループホームの特徴を説明し、必要に応じて他のサービスの利用も含めて利用される方のニーズを考慮した相談を行っている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	グループホームを利用される前の生活環境に少しでも近づけるよう、ご本人やご家族様と話し合いをし、その方に合った支援ができるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一緒に食器洗いや食器拭き、洗濯物たたみなどの家事をしたり、園芸などを楽しんだりしている。また、入居者さんから得意なこと(例えば、折り紙、手芸、歌など)、昔の生活習慣や知恵などを教えてもらいながら、生活を楽しんでいる。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族が来訪された際には笑顔でのあいさつを心がけ、日常の様子を伝えている。また逆に、昔の様子(趣味や特技など)などもお聞きしている。そして、家族会主催の焼肉や、ホームでの行事を通してコミュニケーションをはかっている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	「便り」をはじめとする書面や、来訪時の会話を通して日常生活の様子をお知らせし、お互いの関係がよりよくなるよう働きかけている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人がこれまで大切にしていた人間関係、社会関係を把握し、それを断絶しないよう、外出の機会を設けたり、気軽にご友人にも遊びにきていただけるようにしている。基本的に外泊や外出に制限はもうけていない。ご自分で携帯電話を持っている方もおられるし、希望があればホームの電話も使用してもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	職員は入居者さん同士の関係を把握しており、それぞれの個性や人間関係に応じた配慮を行っている(食事の席や外出のグループなど)。また会話の中で、各々の入居者の特技や趣味などをさりげなく出し、お互いにわかりあえるような働きかけをしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所しご自宅へ帰られた方に対し、必要かと思われるサービスの紹介や、町の職員とも連絡をとり、相談にのっていただけるよう依頼している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各入居者さんの趣味嗜好を把握しており、それを日常生活に取り入れるようにしている。また、思いや希望の実現のため、随時カンファレンスを開くことで、職員もその思いを共有している。		「センター方式」の導入、活用にむけ、現在、勉強会を実施中
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にフェイスシート等にて情報を収集している。また、入居後もご本人やご家族から情報を得ることで、馴染みの暮らしを継続できるよう支援している。		「センター方式」の導入、活用にむけ、現在、勉強会を実施中
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	管理日誌や介護日誌にて一日の過ごし方を、チェック表にて身体状況(毎日のバイタルや、水分・食事量、排泄の有無など)を把握している。そのうえで、性格や生活歴なども考慮しながら、穏やかな生活が送れるよう支援している。また、能力に応じた役割も持っていただき、活力と自信の源としている。		「センター方式」の導入、活用にむけ、現在、勉強会を実施中
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアカンファレンスを開くことで、職員間の情報交換、意見交換を行っている。また、ご本人やご家族の要望を介護計画に反映させ、入居者本位のものとなるように心がけている。		「センター方式」の導入、活用にむけ、現在、勉強会を実施中

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護現場ではミニカンファレンスを随時行うことで、それまでのケアの検討、見直しを行っている。しかし、介護計画の改定にまでは至っていない。		「センター方式」の導入、活用にむけ、現在、勉強会を実施中
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者さんの状況を個別の介護日誌に記入し、申し送り等でその情報を共有している。また、カンファレンスではその介護日誌を活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	要望に応じて、外出や外泊の支援をしている。また、随時ご家族の宿泊も受け入れており、利用される方もいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議に町内会長さんや民生委員さんなど地域役員の方々に入っていただき、地域との協力体制にある(町内会と一緒に市へ道路の整備を依頼した)また、行事等には地域の方がボランティアに来てくださっている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現在、訪問マッサージ、訪問理美容を利用している。また以前は、必要に応じて訪問歯科診療も利用していた。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	ケアマネージャーが地域包括支援センターの勉強会に参加し、情報交換などを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ほぼ毎日、法人の院長や看護師長が入居者さんの様子を見に来ている。また、毎月一回の定期受診も行っている。顔なじみなので、気軽に相談できているようだ。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	法人の院長と専門医の連携により、適切な治療を受けられている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員を確保しており、日常の健康管理の支援をしている。また、24時間連絡が取れる体制にもなっている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院先の病院と随時情報交換している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や終末期に向けた方針は確立されており、医師も交えご家族の要望に応じる準備もある。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	一つのチームとして医師、看護師と連携し、ご家族の要望を取り入れつつ、変化に備えて準備を進めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>リロケーションダメージを防止、軽減できるよう、関係者間で情報交換を行っている。 (地域の民生委員や入院先の病院への情報提供など)</p>		<p>「センター方式」の導入、活用にむけ、現在、勉強会を実施中</p>
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入居者さんの誇りに傷をつけないような言葉かけや対応を行っている。居室やトイレに入る際にはロックをしたり、プライバシーにも配慮している。また、「便り」の写真使用について、ご家族に同意書をいただくなど、個人情報の取り扱いにも気を付けている。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>ご本人の思いや希望には耳を傾け、その実現に向け支援している。また、加齢や認知症の進行により、たとえ判断能力、表現能力が低下していたとしても、ていねいに接することで、ご本人の思いや希望を受け止めようとしている。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとりのペースを尊重し、できるかぎり希望にそって暮らせるように支援している。食事の時間や入浴の順番なども、ご本人の意向にて調整している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>天候や気温によりアドバイスすることはあるが、基本的にご自分の着たい服を着ているようだ。外出時、自分でお化粧されている方もいる。月に一回ほど訪問美容をお願いしているが、外部の美容室を希望される方は、そちらに出かけられている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>毎食、職員と入居者が一緒にわきあいあいと食事している。好き嫌いのある方には、別のメニューも用意している。時々、鍋やホットプレートを囲んだり、出前を取ったり、外食したりもしている。片付けも、食器洗いや食器拭きを一緒にしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	居室への冷蔵庫の持ち込みは遠慮しているが、そのかわり台所に入居者さん用の冷蔵庫を用意しているので、そこに飲み物やおやつ、果物などを保管し、日常的に楽しんでる。タバコ、お酒は現在、希望者はいない。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンやサインを把握し、適時トイレに誘導するなどしている。日中と夜間の対応を変えたりもしている。また、使用しているパットも、そのときの体調や状況によって大きさ等を使い分けている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴日(曜日)を設定させていただいているが、希望や体調により、日にちや時間を選んでいただいている。また、入り方も本人の希望にそっている。万が一、体が汚れてしまった時には、入浴日に関係なく、シャワー浴などで対応している。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	生活習慣を考慮し、一日の中で、必要な時に休んでいただけるように支援している。万が一、睡眠のリズムが崩れた時には、何が本人にとって最良かを考え、必要ならば職員の働きかけを行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	役割としては食器洗い、食器拭き、洗濯物たたみ、お花の水やり、ごみ入れ作り、おしぼりたたみなど、能力や適性に応じて担ってもらっている。また、カラオケやゲームなどみんなで楽しめるものはもちろん、読書、手芸、工作、音楽鑑賞、カメラなど個人的な趣味も大切にしている。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	大方の入居者さんが日頃からお金を所持している。それ以外の方も能力に応じて、外出や買い物の際に、ご家族からお預かりしているお金をお渡しし、支払いを自分で行ってもらう。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	希望により、買い物会などの行事のほかにも、金融機関、八百屋、写真屋、コンビニ、スーパー等に出かけている。また、天気の良い日は近くを散歩したりもする。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	行事で外出、外食したり、ご家族の協力のもと外出、外食したりしている。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	個人で携帯電話を所持している方や、毎年年賀状を書いている方、しばしば道外の息子さんに写真や手紙を出される方などがいる。また、希望があれば、いつでもホームの電話をお貸しし、使用していただいている。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間に制限は設けておらず、いつ来ていただいても大歓迎である。いつも笑顔で対応し、イスや食器を自由に使用していただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置。身体拘束を原則禁止しており、どうしてもやむを得ない時には、その理由を明確にし、ご家族の同意を得るなど、厳正な規程を設けている。しかし、開設以来、拘束は一度も行っていない。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間は防犯上の理由から玄関に鍵をかけているが、日中は常時開放しており、入居者さんは自由に入出入りしている。居室の鍵は入居者さんみずからがかけることはあっても、職員がかかることはない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	夜間は2時間おきに巡回し安否確認を行っている。また日中も、職員が居室を訪問しておしゃべりしたりしながら、さりげなく様子を観察している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	食器洗い用洗剤は毎晩、シンク下に保管。包丁も常時目に付かないところに保管しているが、希望があればお出しして使用していただいている。洗濯用洗剤も棚の中に保管しているが、洗濯時自由に使っていただいている。また、一人ひとりの状態に応じて、趣味に使うハサミや裁縫道具の管理をお任せしているケースもある。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリ・ハット報告書、事故報告書を用意し、いつでも読める状態にしてある。また、これをもとに全体会議等で事故防止の話し合いを行っている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	看護師の指導のもと、心肺蘇生法やAED(自動体外式除細動器)の使用法を学んでいる。		前回の勉強会から期間があいてしまったため、定期的に行いたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練を入居者さんも一緒になって行い、その方法を学んでいる。また、緊急連絡網も整備している。また、運営推進会議にて地域の協力もお願いしている。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	面会時など現状の説明を行い、身体状況が変わってきたときには都度連絡、説明を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>体調の変化や異変を発見した時には速やかに看護師や医師に報告し、助言や指示をおおいでいる。また、職員間でも管理日誌や介護日誌、申し送りなどで情報を共有している。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>服薬による症状の変化は都度医師に報告している。それにより、薬の変更、中止が行われている。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>チェック表の活用により、排便の有無や食事・水分量の把握ができるため、飲み物をすすめたり、適時にトイレ誘導したりしている。また、毎日のラジオ体操や軽運動など、体を動かす機会もつくっている。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>自主性に任せている方もいるが、能力に応じて、歯みがきや義歯洗浄、うがいをすすめたり、介助するなどして、口腔内の清潔を保てるようにしている。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>栄養士の作った献立にしたがって、体調や好き嫌いを考慮しながら調理し、固いものは食べやすい大きさにしたり、別メニューを用意したりと、都度工夫してる。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>インフルエンザや肺炎球菌の予防接種の実施、包丁、まな板、ふきんの消毒殺菌、手洗いの励行など、医療面や生活面で気を付けている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	栄養士が食材を用意、管理している。食中毒予防の為、毎日、調理用具の消毒殺菌を行っている。また、生肉や生魚に使用した包丁、まな板は使用後速やかに消毒殺菌してる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	外の花壇やプランターに花を植えたり、玄関に植木鉢を置いて、明るい雰囲気づくりを心がけており、時々、入居者さんのご家族も盆栽や切り花を持ってきてくださる。また、玄関には行事掲示板を設け、地域の方々々に催し物をお知らせしている。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	いたるところに生花や造花を置いている。それも、秋なら栗やススキ、冬ならポインセチアなどと季節感を大切にしながら。また、耳障りとならないよう、不要なテレビやラジオは極力消して、居心地よく過ごせるようにしている。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにはソファや畳があり、それぞれ好きな場所で、思い思いに過ごしている。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅から馴染みの物や使い慣れた家具、大切な写真、趣味の道具などを持ってきていただき、それを好きなように配置していただいている。また、仏壇を置いている方もいる。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	各居室や廊下、食堂に温度計を設置している。暑がり、寒がり様々な入居者さんがいるので、その方々に合わせた温度調節を行っている。また、掃除の時などを利用して、窓を開けたり、換気扇を回したりと、きれいな空気を室内に入れるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>建物全体がバリアフリーとなっており、廊下、食堂には手すりを設置している。また、食堂のイスは体格に合わせて2種類の高さ(38、40センチ)を用意している。トイレも3種類の高さ(38、40、42センチ)を用意し、安全に使用できるよう、手すりはもちろんファンレストテーブルの設備もある。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>トイレの場所が各居室を出てすぐわかるように、目印をつけている。また、浴室にも「ゆ」と書いたのれんをかけることで、目印になり、かつ雰囲気も出ている。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>中庭や畑にお花や野菜を植えたり、その周りにベンチやテーブルを置いたりしている。そのため、入居者さんが花や野菜の手入れをしてくれたり、ベンチでひなたぼっこをしたりしている。</p>	

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 <u>利用者の2 / 3くらい</u> 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p><u>毎日ある</u> 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p><u>ほぼ全ての利用者</u> 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 <u>利用者の2 / 3くらい</u> 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 <u>利用者の2 / 3くらい</u> 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p><u>ほぼ全ての利用者</u> 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 <u>利用者の2 / 3くらい</u> 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 <u>家族の2 / 3くらい</u> 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 <u>たまに</u> ほとんどない</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている <u>少しずつ増えている</u> あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p><u>ほぼ全ての職員が</u> 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が <u>利用者の2/3くらいが</u> 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が <u>家族等の2/3くらいが</u> 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

医療法人のグループホームであることから、クリニックが提供する安心感がある

- ・24時間体制で医師の診察が受けられる
- ・毎日、必ず医師の来所がある

ふれあい会館というコミュニケーションホームがあり、地域の活動や行事等、広々としたスペースが活用できる
今年末に完成する高齢者マンションと廊下から往来でき、リハビリ室や喫茶店、展望室などが利用できるようになる